



The Web Conference 2020 参加報告

The Web Conference とは

The Web Conference は、Web の方向性、関連技術の標準化、関連技術の社会的な貢献に関して議論される国際会議である。The Web Conference 2020 は、4 月 20 日から 24 日まで、台湾・台北で開催が予定されていたが、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のパンデミックにより、同日程でオンラインでの開催となった。この国際会議は、The World Wide Web Conference (WWW) の名称で 1994 年にジュネーブにて初めて開催され、2018 年に The Web Conference に名称が変更された。この会議は年次開催 (1994 年と 1995 年だけ年 2 回開催) で、アジア開催としては、香港 (2001 年)、千葉 (2005 年)、北京 (2008 年)、ハイデラバード (2011 年)、ソウル (2014 年) について 6 回目である。

The Web Conference 2020

概要

会議での発表は Zoom^{☆1} (Zoom が使えない場合には、Chime^{☆2} も利用できた)、プレナリーセッションは YouTube Live^{☆3} で行われた。会議の情報配信には、Whova^{☆4} が使われた。Whova では、参加者同士のメッ

☆1 <https://zoom.us/>

☆2 <https://aws.amazon.com/jp/chime>

☆3 <https://www.youtube.com/>

☆4 <https://whova.com/>

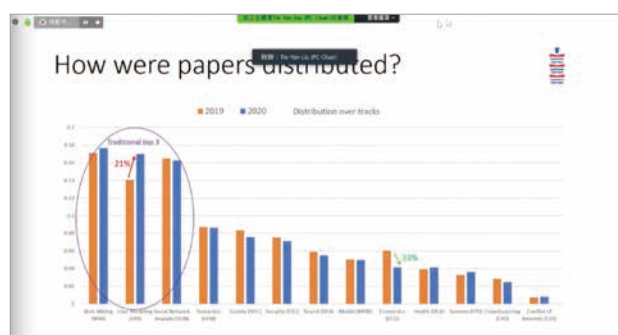


図-1 論文トピックの分布

セージのやりとりや自分用の会議スケジュールを組むことができる。特に、オンライン開催の今回は物理的な部屋の移動がないため、発表スロットごとに違うセッションに参加することが容易で、外部のカレンダーアプリと連動できるスケジュール管理機能は有用であった。会議のオープニングとクロージング、キーノートは、YouTube に掲載されており、アクセス可能である^{☆5}。オープニングでは、中華民国行政院政務委員の Audrey Tang 氏による、台湾における新型コロナウイルス感染症への対応についてのトークや台北市長によるトークがあった。

採択率・トピック・論文賞

2020 年の採択率は、フルペーパー 19% (219 / 1,129)、ショートペーパー 24% (97 / 397) であった (一部、フルペーパーで投稿された論文もショートペーパーとして採択されている)。2019 年と 2020 年の会議における論文トピックの分布 (図-1) が示すように、Web Mining, User Modeling, Social Network Analysis が、従来どおり最も関心が集まっているが、User Modeling の論文が増えており、Economics の論文が大きく減っている。また、論文中の出現単語のワードクラウド (図-2) を見ると、グラフ、深層学習に関するトピックに注目が集まっている。確かに、筆者が参加したセッションの多くで、GNN (Graph Neural Network) の新しいモデルの提案や GNN を利用した手法などが多く見られた。

論文賞は、以下の通りである。Test of Time Award の選出についてはプレスリリース^{☆6}を参照されたい。

◆ **Best Paper** : Open Intent Extraction from Natural Language Interactions (N. Vedula et al.)

◆ **Best Student Paper** : Mobile App Squatting (Y. Hu et al.)

◆ **Best Poster** : Edgify : Resource Allocation Optimization for Edge Clouds Using Stable Matching (J. Wang et al.)

◆ **Honorable Mention** : A Knowledge-Enriched Model for Emotional Conversation Generation (A. Zhang et al.)

☆5 会議トップページからリンクあり、

<https://www.2020.thewebconf.org/>

☆6 <https://www.iw3c2.org/ToT/PressRelease-ToT-Award-20200421.pdf>

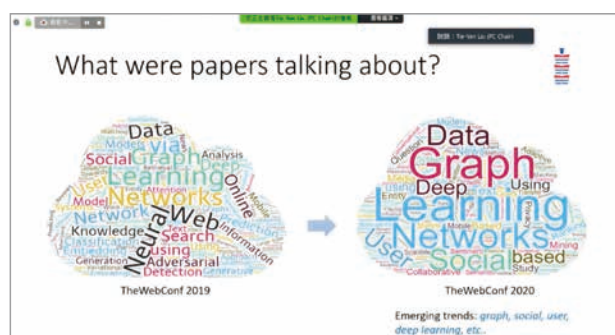


図-2 2019 年と 2020 年の論文トピック

◆ **Seoul Test of Time Award : Mining the Peanut Gallery:**
Opinion Extraction and Semantic Classification of
Product Reviews (K. Dave et al., WWW 2013)

オンライン開催

上述のように、今年の The Web Conference はオンライン開催となった。新型コロナウイルス感染症の影響で多くの会議が中止、延期、オンライン開催への移行などの対策を求められている^{☆7}。今回は台湾 (GMT+8) での開催で、日本時間 (GMT+9) から 1 時間遅くスケジュールが進行したため、日本からは特に参加しやすい会議であった。当初、全日程参加する場合の参加費 (Early bird registration) は 35,000 台湾ドル (約 12 万円) だったが、オンライン開催になったことで、一律 6,000 台湾ドル (約 2 万円) で全日程に参加できた。参加者数は、Zoom だけでおよそ 7,000 名とクロージングで報告された。国別に見ると、台湾、アメリカ、中国、日本、インドからの参加者が多かったことが分かる (図-3)。

発表の形式は、オンタイムで Zoom を介して発表を行う方法と発表時間に録画を再生し、Zoom を介して配信する方法の 2 つがとられた。後者において、発表者が発表セッションに参加しており、録画の再生後に直接質疑を行っているケースがしばしば見られた。

今回の会議中には、トラブルに関する案内もなく、全体を通して大きなトラブルはなかったように思われる。

☆7 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた会議のまとめ
<http://www.conferencelist.info/corona.html>



図-3 国別の参加者数

小さいトラブルとしては、発表者が現れなかったり、録画が正常に再生・共有されなかったり、解像度が悪かったり、といったことがあった。これらのトラブルも、ボランティアスタッフの迅速な対応によって解消し、大きな遅延なく進行していた。

プログラム

会議は 20 日から 24 日の日程で、20 日と 21 日はワークショップとチュートリアルが行われ、22 日から 24 日にかけて本会議が行われた^{☆8}。ワークショップはフルデイとハーフデイを合わせて 14 件あり、トピックは時系列データ処理、自然言語処理、グラフデータ処理など多岐にわたった。チュートリアルは 13 件あり、さまざまな技術やツールに関する紹介が行われた。チュートリアル T5 “Learning Graph Neural Networks with Deep Graph Library” では GNN のライブラリである DGL の基本的な使い方から大規模データへの適用方法について、AWS の SageMaker^{☆9} を利用して紹介された。

本会議では、毎朝キーノートがあり、初日は Yolanda Gil 氏 (University of Southern California)、2 日目は Sir Nigel Shadbolt 氏 (University of Oxford)、3 日目は Wei-Ying Ma 氏 (ByteDance) によるトークがあった。前述のとおり、これらは YouTube で見ることができる。

The Web Conference 2021

次回の The Web Conference は、2021 年 4 月 19 日から 23 日にかけて、Slovenia の首都 Ljubljana で行われる^{☆10}。投稿日程などは今後公開される予定である。筆者の管理する会議日程共有サイト^{☆11}にて、投稿日程を随時更新しているので、ご参考までに。

(駒水孝裕／名古屋大学)

☆8 <https://www2020.citi.sinica.edu.tw/schedule/>

☆9 <https://aws.amazon.com/jp/sagemaker/>

☆10 <http://www2021.thewebconf.org/>

☆11 Conference List <http://www.conferencelist.info/>